

矯正マウスピース外さずゼリー

無色、着脱ストレスを軽く

DM三井製糖、「虫歯になりにくい糖」



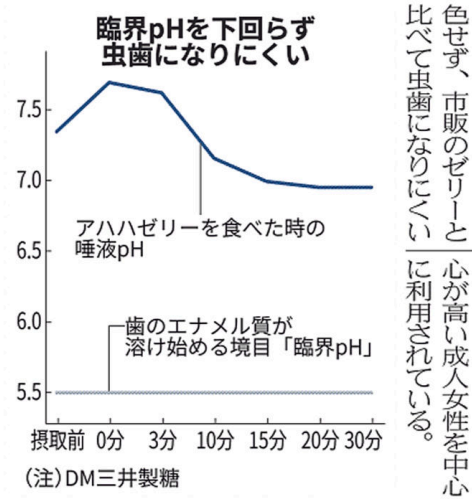
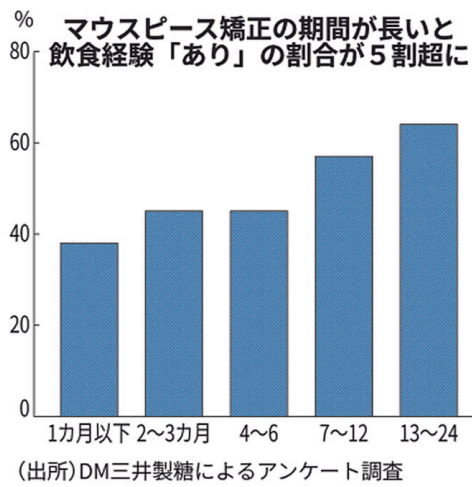
DM三井製糖が歯科医院で販売している「ahahaゼリー」(写真上)。DM三井製糖の高井氏(左)と、マウスピース矯正に詳しい松岡医師



(写真下)。DM三井製糖の高井氏(左)と、菊池歯科医院(東京・大田)の松岡伸也医師

「水しか飲めない」「1日20時間以上装着」。マウスピースによる歯の矯正は、患者がルールを守り続けられるかが重要になる。食事や飲み物などで外す時間を最小限に抑えることがストレスに抑えることがストレスに抑えることがストレスに抑えることが...

「アハハゼリー」で、糖を使っている。菊池歯科医院(東京・大田)の松岡伸也医師によると、マウスピースでの矯正をしている患者は国内で年間15万〜16万人ほどという。ワイヤ矯正に比べて装着が目立ちにくく、特に美容への関心が高い成人女性を中心に利用されている。



一方で、自己管理が求められる治療でもある。食事のたびに外し、歯を磨いて再び装着する必要があり、DM三井製糖が患者562人を対象に実施したアンケートでは、マウスピースを装着したまま、水以外の飲食をしたことがあると答えた人は5割にのぼった。治療期間が長いほど、マウスピース装着での飲食経験について「あり」と答えた人が多かった。

この悩みに着目したのが、DM三井製糖のライフ・エナジー事業開発本部の高井祐輔氏だ。マウスピースの利用者でもある。「歯科医師や患者へのヒアリングを重ねて、商品の設計に苦労した」と振り返る。

一般的に飲食をする際、口の中の酸性とアルカリ性の指標となる水素イオン濃度指数(pH)は一時的に酸性に傾く。そして歯のエナメル質が溶け始める境目とされる「限界pH」を下回る。通常は唾液によって中性に近い状態へと戻るが、マウスピースの着用中は自浄作用が働きにくく、酸性の状態が続きやすくなる。結果として、虫歯リスクが高まる。

そこで高井氏は、口中が限界pHを下回らず、マウスピース装着中に食べても酸性に傾きにくいゼリーの開発に取り組んだ。糖には、栄養補

給ができ、かつ虫歯菌のエサになりにくい「トレハロース」を採用。歯が溶けにくい口内環境を保つ設計だ。

アハハゼリーを採用している歯科医院では、歯科衛生士などが商品の特徴を患者に丁寧に説明することで購入につながっているという。特に美容師や営業職など、仕事に食事の時間を確保しにくい層から「手軽に栄養を補える」点が支持されている。

歯科医院では、患者が治療を続けるため「歯へのリスクがより低い選択肢」として受け入れられている。高井氏は「完全に虫歯にならないとは言えないため、「歯に優しい」と表現している」と話す。

マウスピースによる矯正は、忙しさや面倒さから生じる装着時間の不足が課題になりやすい。松岡医師は治療でメンタル面の管理も意識し、「なぜ矯正を始めたのかを患者自身に問い、ゴールをイメージさせることが重要だ」と指摘する。

アハハゼリーは今後、歯医医院への導入数をさらに増やしていく方針だ。新しいフレーバーの展開に加えて、矯正治療以外への応用も視野に入れている。高井氏は「介護やスポーツなど、異なる現場の悩みに寄り添っていきたい」と意気込む。

(甲斐嗣月)